

## 「新聞の活用を通して」 ～NIEの日常的な実践～



西区 土屋中学校 教諭 有村 佳良子

### 1 はじめに

本校は、昨年度から2年間に渡ってNIEの実践校として各教科、道徳、特活などの時間を中心にNIEに取り組んできた。新聞を扱った言語活動を行うことで、「新聞離れ」の現状を少しでも変え、研究主題でもある「自分の思いや考えを伝え合い、互いに高め合う生徒の育成」を図ることを目標として取組を行った。

### 2 実践内容

#### ①環境づくり（図書委員による取組）

体育館脇の広場にNIEコーナーを設け、記事のスクラップを行っている。バックナンバーも、コーナーの棚に新聞社ごとに保管をし、いつでも見られるようにしている。

#### ②新聞形式によるまとめの学習

各学年ともに、行事の後に、総合の時間を使って新聞形式でまとめを行っている。事前に調べ学習を行い、テーマに関して調べた事項を見た目も考慮しながら書き記している。また、撮った写真を貼りつけたりインタビューしたことを書き足したりもしている。生徒達は、写真や絵などを入れることで見た目も工夫し、インタビューなどを通して、人の意見や考えを入れることもできるようになった。また、自分の感想や体験したことも、相手を意識しながら書くことができるようになった。

#### ③NIE読売ワークシート通信

読売新聞社から配信される読売ワークシート通信を保管し、教員間で自由に使えるようファイリングを行っている。

#### ④読売新聞NIE投書への参加

読売新聞の中高生による投書に参加。1月26日（土）に掲載。（全学年国語の授業でテーマに対する投書を書き、その中の代表者の投書が掲載。）

#### ⑤NIEを取り入れた授業実践

様々な教科で、新聞を取り入れた授業を行っている。

### 3 成果（○）と課題（●）

- 新聞を扱った授業を多く取り入れることで、生徒の興味関心を引く授業が展開され、授業に対する意欲が出てきた。
- 教科を問わず様々な授業で新聞が扱われることで、社会で身に付けた力を国語に生かすなど、他教科間での連携もとれた。
- 新聞に触れる環境作りをすることで、生徒の新聞に触れ合う機会が増えた。
- 新聞も情報を入手する手段として認識できるようになった。
- 道徳などの授業では、最新の記事を扱うことで、生徒の社会に対する関心や考え方の育成を図れた。
- 今後新聞配布がなくなった時に、どのようにNIEを継続していくかを検討していく必要がある。
- 授業の必修事項との兼ね合いを考えながら、どのタイミングでNIEを取り入れた授業を行うかを年度当初に検討する必要がある。
- 教科によっては新聞を取り入れにくい教科もあるため、担当が情報提供や支援をしていくことが必要である。